



妙高市立妙高高原北小学校

第7号

学校だより

令和4年10月28日

友達、学校、そして地域への愛を込めて

校長 加藤 一穂

10月15日、さわやかな秋晴れの中、「閉校記念 青空こどもまつり」が行われました。妙高高原北小学校として行う最後の「青空こどもまつり」でした。

前半は、青空コンサートです。低学年、中学年、高学年そして課外音楽部がそれぞれ練習してきた成果を披露してくれました。どの学年も妙高高原北小学校への思いや地域への愛に溢れた演奏で、とても心温まるコンサートになりました。

それぞれの学年の曲紹介を紹介します。

5・6年生の曲は、「ふるさと」です。



ぼくたちを見守る「妙高山」
悠々と流れる川
高原を吹き抜ける風
夜空にきらめく満点の星
これが私たちの「ふるさと」
助け合える仲間との思い出がつまった場所
大切な人たちがいる場所
ぼくたちの帰る場所
それが私たちの「ふるさと」
妙高高原北小学校は、新しい小学校になるけれど
「ふるさと」を大切に思う気持ちは、変わりません。
「ふるさと」への感謝の気持ちをこめて歌います。

3・4年生の曲は、「スマイル」です。

毎日笑わせてくれる友達
失敗したときや悲しい気持ちのときにはげましてくれる友達
いっしょにいと安心できる友達
みんながいるから楽しい みんながいるからがんばれる
みんながいるから笑顔になれる
そんな妙高高原北小学校で過ごしてきた大切な日々を思い歌います。



そして、1・2年生の曲は、「たいようのサンバ」です。

大好きな北小学校
北小学校には思い出がいっぱい！
北小学校、大切な思い出をありがとう。



青空コンサートの最後には、会場にいる全員で「校歌」を歌いました。

「校歌」について、前校長の岡田和則先生が学校だより（平成 30 年度第 3 号）に次のように記載しています。

「校歌」の歌詞は、当時の子供たちへの思いや願いが込められた証の一つです。晩年 20 年余りを新赤倉の安明荘で過ごした画家の「小杉放菴」が昭和 26 年に作詞した当校校歌の 3 番は、「大空高き 妙高の 嶺より高き 希望あり 国再建の将来は 我らの肩にかかりたり 越の名香山北小学校」（※ 1）と結んでいます。戦後の混乱期を経て、まさに将来の国づくりを子供たちに託そうとした放菴の願いが見て取れ、時代や世の中が変わっても、連綿とその校歌は歌い継がれてきています。

※ 1 校名の妙高北小学校は昭和 31 年より、妙高高原北小学校は平成 17 年より。昭和の校名改称時に歌詞変更。



子供たちだけでなくおうちの方や地域のみなさんと体育館中に「校歌」を響かせることができました。ありがとうございました。

青空コンサート後の「青空わくわくタイム」では、PTAのみなさんに準備していただいた 4 つの活動に分かれて、お家の人と力を合わせながら作ったり動いたりして、楽しむことができました。

楽しい秋の一日になりました。



南小学校との交流活動も活発に行っています。

6 年生 地層見学



3 年生 かんずり工場見学



1 年生 交流会

